

標語「いつまでも 続くけんこう 歯の力」

上記は、2019年度歯と口の健康週間（6月4～10日）の標語です。

目的

この週間は、歯と口の健康に関する正しい知識を国民に対して普及啓発するとともに、歯科疾患の予防に関する適切な習慣の定着を図り、併せてその早期発見及び早期治療等を徹底することにより歯の寿命を延ばし、もって国民の健康の保持増進に寄与することを目的とする。

日本歯科医師会ホームページより

幼稚園では、5月14日に歯科検診を行いました。その結果を、保護者のみなさまにお知らせしました。

昼食後、子どもたちは歯磨きをしています。洗い場の前で、自分のペースで進めています。この取組から、歯磨きが習慣化されることを期待しています。ご家庭では、朝、夜と歯磨きをしていただいていると思います。歯磨きを通して、歯の大切さをしっかり感じ取ってほしいです。

乳児期後半～幼児期 ー歯みがきの導入から自立へー

生歯が見られたら歯みがきを始める。しかし、いきなり歯ブラシを使うと「歯みがき嫌い」になることが多いので、歯の生え方をみながらガーゼみがきなどから始め、徐々に歯ブラシに慣れさせるようにする。

この時期は、基本的には親がみがくことになるが、幼児期後半から徐々に歯みがきの自立にむけて準備にとりかかる。歯みがきの自立は学童期になるまでにできればよい。

親が子どもの歯みがきをする時は口の中が見やすく、頭が固定される姿勢でみがく。幼児期前半までは、正座をした膝の上に子どもを仰向けに寝かせてみがく「寝かせみがき」が推奨される。幼児期後半になって「寝かせみがき」をいやがるようになったら、立位で、親が後ろから子どもの顎を利き腕でない方の腕で支え、顔を少し上向きにしてみがく「立たせ後ろみがき（スターキーズポジション）」でみがくと良い。

日本小児歯科学会ホームページより